

# 会報

事務局

北海道札幌月寒高等学校

〒062-0051

札幌市豊平区月寒東1条3丁目

TEL 011-851-3113

FAX 011-851-3112

## ~~~~~ 卷頭言 ~~~~~

### 「多様なニーズに応える定通教育の発展」

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会長  
北海道有朋高等学校副校長 大谷 健介

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、平素より当部会の運営、ならびに諸事業の推進に御理解、御協力をいただき厚く御礼申し上げます。また、北海道教育委員会、北海道高等学校長協会をはじめ関係諸機関の皆様には、多大なる御支援、御指導を賜り、心よりお礼申し上げます。

さて、平成30年10月、文部科学省の事業「定時制・通信制課程における多様な学習ニーズに応じた指導方法等の確立のための調査・研究」の趣旨を踏まえて、全国定通校長会が全国の定通の高校へアンケート調査を実施しました。この事業における多様な学習ニーズとして、次の5つの学習ニーズについて示しています。それらは、①不登校生徒、中途退学経験した生徒の学習ニーズ、②特別な支援を必要とする生徒の学習ニーズ、③経済的に困難を抱える生徒の学習ニーズ、とこれまでも各学校で取り組んできた内容に加え、④非行・犯罪歴を有する生徒の学習ニーズ、⑤外国籍、日本語の指導が必要な生徒の学習ニーズと言った幅広い内容について取り上げられ、これらの調査結果が1冊の書籍にまとめられました。定通教育においては、これまでも多様な生徒に対応した教育活動を進めているところですが、社会の急激な変化に伴い、これまで以上にさまざまな生徒に対応できる教育活動を目指した定通教育の充実が求められています。

北海道内の定通教育におきましては、定通体連大会や生徒生活体験発表大会をはじめ、6月に開催されます高等学校定通教育振興会での教育実践の発表や道教委が進める定通パワーアップ事業における実践研究が行われています。特に、10月に行われました生徒生活体験発表大会におきましては、全道から12名の定時制通信制で学ぶ生徒が、これまでの自分の生活を振り返り、定通で学んだことの尊さや感謝の意、そして、学校生活を通じて変わることのできた自分を表現してくれました。会場で発表を聞いたすべての人が深い感銘のもと、定通教育の素晴らしさを改めて感じさせてくれる素晴らしい大会となりました。定時制通信制に学ぶ生徒たちがますます活躍できる場面が増えていくことを願ってやみません。

終わりになりますが、定通教育に携わるものとして学校間でのネットワークをこれまで以上に深め、これらの特性を活かしながら、生徒の実態に応じた、創造的、効果的な教育活動のより一層の充実・発展を期待しますとともに、この一年間の会員の皆様の御協力に感謝申し上げ、巻頭の辞とさせていただきます。

## 定時制・通信制教育の一層の充実に向けて

北海道高等学校長協会 定通部会長  
北海道有朋高等学校長 蓑 島 崇

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の皆様には、日ごろから本道高等学校の定時制・通信制教育の充実に御尽力をいただき感謝申し上げます。

さて、我が国の高等学校定時制・通信制教育は、戦後間もない昭和23年の発足し、勤労青少年に就学の機会を確保し、働き学ぶ生徒を支える中で戦後の復興から経済大国の今日の発展に至るまで、社会の各分野の発展に大きく貢献してきました。このことの意義は誰もが認めるところです。しかしながら、社会情勢の変化に伴い、定時制・通信制課程に学ぶ生徒の状況も大幅に変化し極めて多様化しています。各学校には、様々な困難を抱えた生徒や外国籍の生徒、スポーツや芸術など自らの特技や才能を活かした活動に集中して取り組みながら自分のペースで学びたい生徒など、正に多種多様な生徒がそれぞれの目的に向かって一緒に学んでいます。さらに中高年の生涯学習の場としての役割も担うなど、人々の高校に対する考え方や学びのスタイルが多様化する中、社会の要請に対応できる柔軟な教育システムを有する定時制・通信制課程が近年一層クローズアップされています。これらに加えて、小規模校が多数を占める本道の定時制においては、限られた教員数で特色ある教育課程を編成・実施し、いかに生徒の多様な学習ニーズに応えていくのが大きな課題となっています。

このような中、各学校においては、これまでも少人数という特色を活かしたきめ細かな指導の充実を図るとともに、定通併修や学校間連携による教育課程の拡充、三修制の拡大、地元企業と連携したキャリア教育の充実など、様々な取組を進めているところであり、その中心となっておられる副校長・教頭の皆様に敬意を表する次第です。今後においても、さらなる少子化の進行と入学者の多様化が予想される中、既存の取組を一層充実させるとともに、ICTの活用や地域の教育資源を活かした特色ある教育活動の展開など新たな対応が求められており、皆様の御努力により多様化した生徒の実態や学習ニーズに応える魅力と活力あふれる教育活動が展開され、定時制・通信制教育の一層の充実が図られることを心から期待しております。

最後になりましたが、本部会の益々の発展と会員の皆様の御健勝を祈念し、挨拶とさせていただきます。

## 令和元年度 事業報告

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会事務局長  
北海道札幌月寒高等学校 教頭 佐藤 恵一

日頃より事務局の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、本年度の事業につきましては当初の計画通りに実施しております。これもひとえに会員の皆様のご支援の賜と感謝申し上げます。ありがとうございました。

### ● 北海道の事業報告

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	令和元年 5月15日(水)	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会 (会場) ホテルライフオーテ札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議、 研究協議 出席者：45名
2	5月15日(水)	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会 (会場) ホテルライフオーテ札幌	内容：報告事項、事業計画、予算案審議、 定通体連運営協議 出席者：45名
3	6月3日(月)	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会 (会場) ホテルライフオーテ札幌	内容：事業・会計報告、事業計画、予算案審議 研究協議 出席者：56名
4	7月26日(金)	◆第51回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会 (会場) 札幌北高等学校	内容：講演、研究協議 出席者：35名
5	10月10日(木)	◆第63回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会 (会場) 札幌市教育文化会館	内容：生徒生活体験発表 出席者：291名
6	令和2年 3月上旬	◆令和元年度調査研究部報告書発行 ◆「会報」発行	内容：調査研究「総合的な探究の時間について」

### ● 全国の事業計画

No.	期日	事業計画	内容及び出席者
1	令和元年 5月7日(火) ～8日(水)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会 (会場) 山形県立霞城学園高等学校(山形市)	内容：事業報告、事業計画、予算審議 出席者：有朋高教頭 1名
2	6月7日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：全教協大会議案審議、講演、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名
3	6月12日(水) ～14日(金)	◆第71回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(全通研大会) (会場) 長崎市民会館(長崎県長崎市)	内容：総会、研究協議 出席者：有朋高校校長・副校長ほか 計11名
4	7月25日(木) ～26日(金)	◆第70回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 総会・教育研究協議会(全教協大会) (会場) ホテルオークラ新潟(新潟県新潟市)	内容：全国理事会、総会、講演、研究協議 出席者：部会長、研究発表者 計2名
5	8月1日(木) ～2日(金)	◆第70回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 (全振大会) (会場) ホテルビューかごしま(鹿児島県鹿児島市)	内容：報告、研究協議 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計4名
6	10月24日(木) ～25日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会(地区通研大会) (会場) 郡山商工会議所(福島県郡山市)	内容：報告、講演、研究協議 出席者：有朋高校校長・教頭ほか 計6名
7	11月17日(日)	◆第67回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会 (会場) 六本木ヒルズハリウッドプラザ(東京都)	内容：生徒生活体験発表 出席者：生徒、引率教諭 計4名
8	12月5日(木) ～6日(金)	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会 (会場) ホテル東日本青雲会館・杜陵高校(岩手県盛岡市)	内容：令和元年度事業中間報告、研究協議 出席者：有朋高校教頭 1名
9	12月13日(金)	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会(全教協理事研) (会場) 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都)	内容：令和元年度事業中間報告、研究協議 出席者：部会長、事務局長 計2名

第71回全国高等学校通信制教育研究会  
長崎大会・研究協議会報告  
北海道有朋高等学校副校長 大谷 健介

- 1.期 日 令和元年6月13日(木)・14日(金)
- 2.会 場 長崎市民会館(長崎県長崎市)
- 3.参加数 全国加盟校や関係機関から357名が参加
- 4.概 要

(1) 文部科学省講演

「高等学校教育改革の動向と定時制・通信制課程の未来」(初等中等教育参事官付専門官 稲葉久美子氏)

(2) 記念講演

「長崎と国際理解教育」

(長崎総合科学大学教授 ブライアン・バークガフニ)

(3) 研究協議会(分科会)

第1分科会「学校運営」

第2～4分科会「教科:国語、数学、理科」

第5分科会「放送教育」

第6分科会「人権教育・教育相談」



(4) 全体協議会

ここでは、第1分科会「学校運営」に係る研究協議について詳細を述べる。

第1分科会(学校運営)

◆研究テーマ1

『70年目の実態調査とレポート添削の好事例』

(本部発表)

神奈川県立横浜修悠館高等学校 校長 原口 瑞  
副校長 逸見 育麿  
目黒日本大学高等学校 部長 原田 啓嗣  
埼玉県立大宮中央高等学校 教頭 上田 毅一  
群馬県立前橋清陵高等学校 教頭 天田 徹也  
茨城県立水戸南高等学校 教頭 荒井 豊水  
栃木県立宇都宮高等学校 教頭 高山 緑

1 概要

小中学生の不登校児童生徒の増加や外国籍生徒の増加による学力向上対策や年々増加する転編入学生の受け入れなど、通信制教育の現場では多くの課題に取り組まなければならない。こうした中、ICT機器の急速な普及をはじめとする技術革新とそれに伴う多様なメディアを活用した新たな教育のあり方と教育環境・設備の変化に着目して調査を行い、実態をまとめた。また、通信制教育における「深い学び」に焦点を合わせ、各校における添削指導の好事例について各校から情報提供していただいたものを全体で共有する。

アンケートは全通研加盟118校中、75校から回答。(回答率63.6%)

2 アンケート調査から

(1) スクーリングにおけるICT機器の活用について

ICT機器の活用は80%を超えている状況である。40%の学校で、全教室でのインターネット接続が可能であり、効果的な面接指導の実施や放送視聴において活用されている。また、生徒が所有するスマートフォンや電子機器の活用についても25%の学校で実施済みであると之調査結果が出ている。今後、自宅でのIT講座や総合的な探究の時間での活用が増加すると思われる。

- (2) 日本語指導が必要な生徒の外部機関等との連携について

NHK放送講座を活用した学習支援をはじめ、大学生ボランティアによる学習支援、通訳支援事業・学習支援員等の派遣、系列高校の国際科の生徒による支援等があげられている。今後、日本語を母語としない生徒はますます増加することが予想され、そのニーズは極めて高い。これらを見据えた通信制教育のあり方や都道府県教育委員会との連携による対応について、さらに幅を広げていく必要性を感じる。

- (3) その他

添削指導の好事例について、18校から130科目の事例が紹介された。

## ◆研究テーマ2

### 『本校における特別支援教育充実に向けての取組』

鳥取県立米子白鳳高等学校 教頭 澤西 知子

#### 1 概要

本校は、県内で2校目の定通併置校として平成17年に米子市に開校した。入学生徒の2割程度が中学校から「特別な支援を必要とする生徒に関する必要な引継」制度による引継を行った生徒であり、特別支援教育についての理解と実践が求められており、令和2年度から通級等を含めた特別支援教育を進めていくこととなっている。この実施に向けて、これまで取り組んできた活動について報告する。

#### 2 定通教育の充実に向けて

定通教育充実事業として、生徒の乗馬体験、茶道体験、里山自然体験、和傘づくり等、外部の施設や人材を活用し、生徒の社会性を高める活動を行っている。

また、特別支援教育の充実に向けて、平成27～28年度に「自己理解・他者理解アプローチ事業」リーダー校の指定、平成29～31年度「高等学校における特別支援教育充実事業」モデル校として指定され、令和2年度からその設置校として通級指導を導入することとなっている。

#### 3 具体的な取組

- (1) 中学校から高等学校への引継について

高校生活における指導・支援の充実を図ることを目的として、「特別な教育支援を必要とする生徒に関する必要な引継」制度により、本人・保護者の理解と

了解を得られた生徒を対象として、合格発表以降に「個別の支援計画」引継や「必要な情報のみの引継」を中交換で行う。

- (2) SC、SSWの活用

SCは1ヶ月に8日勤務する。SSWは1週間に35時間勤務することにより、生徒への支援を手厚くして充実を図る。また、臨床心理選考の島根大学院生による「白鳳サポーター」として5名が生徒支援を行っている。

- (3) 校内教員研修について

4月「ユニバーサルデザイン・合理的配慮研修」

7月「学年別のQU分析会」

「他校全日制的通級指導を知る研修」

12月 講演会

- (4) 令和2年度からの通級指導について

協議を重ね次のような内容でまとまる。

- ① 定時制の「自立活動」の講座を定通併修として単位認定する。
- ② 対象生徒は発達障がい疑いがあり、本人・保護者から受講の申し出があった生徒とする。
- ③ 担当者は定時制教員とし、必要に応じて外部機関との連携を図る。
- ④ 内容はコミュニケーション能力と生活スキルの育成とする。
- ⑤ 評価は文章で行う。

#### 4 通級指導の課題

- ① 担当者が十分な研修を行える体制が必要である。
- ② 他校とのネットワーク構築
- ③ 希望生徒の選考方法
- ④ 対象以外の生徒の支援のあり方

**第70回記念全国高等学校定時制通信制教育振興会  
大会・研究協議会（鹿児島大会）参加報告  
北海道有朋高等学校単位制Ⅱ・Ⅲ部  
教頭 荒木和也**

第70回記念全国高等学校定時制通信制教育振興会大会・研究協議会が令和元年8月1日（木）～2日（金）の2日間、鹿児島市のホテルウェルビューかごしまを会場として開催されました。

「桜島の如く『燃ゆる想い』で鹿児島から新たな定通教育を推進する」という大会テーマのもと、全国から代表が集まり、有意義な研究協議と情報交換が行われました。

大会1日目は、午前中から行われた理事会・評議員会、各県代表者会議に続き、午後から開会行事・総会、記念講演、研究協議Ⅰ・Ⅱ、教育懇談会が行われました。総会では、平成30年度会務報告・事業報告と令和元年度事業目標・事業計画の報告がありました。

開会行事後の記念講演では、鹿児島県立図書館館長・志学館大学人間関係学部教授 原口 泉 氏から「世界遺産の鹿児島―産業革命と南の島―」という演題で、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」、世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」及び日本遺産「薩摩の武士が生きた町～武家屋敷群『麓』を歩く～」を生かした地域創生について講演がありました。

研究協議では定時制の現状と課題をテーマに2日間にわたり4校の取組が紹介され、熱心な研究協議が行われました。

大会2日目の後半には、文部科学省、厚生労働省から質問・要望事項について、①「高等学校等就学支援金」制度について②高等学校等就学支援金制度の拡充について③外国につながる生徒に対する支援について④外国にルーツをもつ生徒に対する日本語教育の推進について⑤「学校をプラットフォームとした総合的な子供の貧困対策の推進に」関わって⑥通信制教育の現状と課題について⑦教職員定数の見直しについて⑧四十人を標準とする高等学校の学級編成の標準の見直しについて⑨高等学校における「通級」による指導について⑩『Society5.0』を見据えた定通教育のあり方についてなどへの回答があり、大会宣言を決議して大会を終了しました。

**第67回全国高等学校定時制通信制生徒  
生活体験発表大会参加報告  
北海道有朋高等学校副校長 大谷 健介**

令和元年11月17日（日）、東京都港区の六本木ヒルズハリウッドプラザを会場として、令和元年度第67回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会が開催されました。北海道からは本校生徒と北海道千歳高等学校生徒の2名が出場しました。全国の定時制通信制高等学校に学ぶ生徒が学校生活や、日常生活の中で感じたことや学び得たことを7分という時間の中に凝縮して発表することで、多くの人々に感動と励ましを与える大会でした。

日本放送協会会長賞を受賞した千歳高校3年原田香純さんの発表内容を紹介します。

第67回全国定時制通信制生徒生活体験発表大会  
日本放送協会会長賞

北海道千歳高等学校 3年 原田 香純

### 「僕」

あれは確か、小学校に上がるほんの数ヶ月前だったと思う。母と一緒に、近くのショッピングモールヘランドセルを買いに行ったときのこと。母が僕に「好きな色を選びなさい。」と静かに言った。

私は満面の笑みで、当時の僕には大きく感じたある色のランドセルを母にいつもより甲高い声で、母の元へ走った。しかし母は逆に、顔から笑みが消えた。まもなくして、母がランドセルを見ながら言ってきた。

「あんたそれ、男の子が選ぶ色だよ？女の子が選ぶ色じゃないでしょ・・・黒なんて。」そう、僕が選んだのは、黒。デザインまで男の子モデル。しかし僕は、それを否定しなかった。それどころか「えっ・・・うん。そうだよ？だって僕、男の子だもん。」と普通に、少し冷めた口調で言った。そんな僕に対して母は「違う、女の子なの。」と言ってきた。互いに互いの主張をぶつけ合うだけの親子げんかがショッピングモール全体に響き渡った。

小学校の6年間。僕が背負っていたのは水色のランドセルだった。その水色のランドセルを背負ったまま、中学校の制服をあ那时的ショッピングモールへ買いに行った。普通ならわくわくしそうなものなのに、僕は学ランは買ってもらえないから。望んでもいない、着たくもない、女でもない……のに、セーター服を買わなくてはならない。制服がと言うより、男女でくっきり区別されたとき、女として分けられることが。

結局中学校生活の3年間は、セーラー服でいたものの、いじめがひどく、ほとんど学校には行かなかった。

卒業してから数週間後、全日制に入学することがどうしても嫌だった僕は、迷った挙げく、今の千歳高校定時制に入学した。そこで僕には一つ迷いごとが生じた。

「これ……僕って言うても良いんだろうか……。皆から見れば僕は女に見えるんだろうし、きっと受け入れてもらえない……。よな。」と。迷いに迷った僕がだした答は、学校では「私」でいることだった。

定時制生活が始まって約10ヶ月。少しだけ環境に慣れてきた僕だったが、変わらず「私」として生活していた。その中で一つ、僕にとって一番大変なことがあった。それは、お手洗い。男子トイレに行くべきか、女子トイレに行くべきかで迷っていた。それだけはどうしてもよいか分からず、思い切って養護教諭の先生に自分のことを打ち明けた。

「あの……僕。体は女だけど、自分自身は男でして……。どうしても女子トイレには入りたくないんです。けど、男子トイレにも入って良いものかどうか……。」すごく声が震えた。初めて人に打ち明けたから。手足が冷たい、怒られる、引かれる、怖い。そんな僕に先生が優しく言ってくれた。

「そっか。つらかったよね。気がついてあげられなくてごめんね。」

すごく嬉しかった。すんなりと受け入れてくれたことが。僕に対して「気持ち悪い。」と笑うこともせず、真剣に話してくれたことが。

2年の冬。特別に使用を許された多目的トイレから出てきた僕に、一人のクラスメイトが聞いてきた。

「何でこのトイレ使ってるの？」

僕は答えた。

「いや……、女子トイレ使いたくなくて……。」

「ふーん。ねえ、かすみってさ、男なの？」

「は……。」

驚いた。なんの前触れもなく、唐突に聞いてきたこの子に。どう答えたら良いのか分からず、僕はとっさに

「あ。……うん。そうだけど……。」と答えてしまった。どうしよう……引かれる……。そう思っていたが、返ってきたのは意外な言葉だった。

「あ～、やっぱり？なんかそうだと思ったんだよね。でも良いじゃん。自分らしく居れば。幸せだよ。自分らしく自由にするの。」

すごく嬉しかった。それと、やっと気がついたことがある。ここなら、僕のことを受け入れてくれる人がたくさん居る。自分らしく居られる。そう初めて思った。

3年の今。僕は自分が私であると偽ることをやめました。それでも皆は僕を受け入れてくれる。たとえ、性別がどうであれ、僕は僕。自分らしく生きようと決めました。4年に上がって、卒業して、社会に出たとき、受け入れてくれる人が必ずしも居るとは限らない。それでも僕は、生き方を変えることをするつもりはありません。性別がどうであれ、自分が性同一性障害であれ、僕は僕なのです。

自分らしく自由に、これからを生きていきたいと、僕は思います。



## 第70回全国高等学校定時制通信制

### 教頭・副校長協会教育研究協議会新潟大会参加報告

北海道旭川工業高等学校教頭 山田 真澄

令和元年度第70回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会教育研究協議会新潟大会が令和元年7月25日（木）26日（金）の2日間の日程で、新潟県新潟市のホテルオークラ新潟で開催されました。定時制通信制に関する諸課題について研究協議を行い、社会の急激の変化と多様化した生徒の実態や学習ニーズに応える魅力と活力溢れる定時制通信制教育の発展と充実に資する。という目的の下、全体テーマとして「教育新時代に対応した定通教育の創造～新学習指導要領の基本方針と方向性を踏まえて～」という内容で全国各地から代表が集まり、有意義な研究協議と情報交換が行われました。

大会1日目は、午前中に行われた全国理事会・総会に続き開会式が行われ、記念講演では、佐渡の廃校を仕込み蔵として再生させた学校蔵プロジェクトを推進してきた尾畑酒造株式会社五代目蔵元の尾畑留美子様の「幸せを醸す酒造り」～学校蔵から未来を描く～を拝聴しました。グローバリゼーションという平均化・均質化が進む現代において、佐渡ならではの素材を用いて酒造りを考え、そこにしかない魅力を創り出していくことは、過疎化・少子化の進行する地方における「ここにしかない教育」に繋がるものがあり、発想の豊かさとともにそのエネルギーの逞しさに強く感銘を抱きました。

その後の研究協議におきましては、教育課程（第1分科会）、生徒指導（第2分科会）、管理運営（第3分科会）、教育制度・単位制（第4分科会）、通信教育（第5分科会）と5つの分科会が行われていましたが、どの分科会のテーマも興味深いものでした。私は第1分科会に参加し、本道と同様に人口減少に伴う生徒数の減少に悩む山口県における定時性教育の現状と課題について、自立した社会人の育成を目指す教育についての協議に参加しました。

2日目の研究協議におきましては第1分科会 教育課程において「主体性を育む教育課程」としまして、発表をさせていただきました。私のつたない発表にも

関わらず、本校の生徒募集活動に共感いただいたり、参考にしていただいたり、カリキュラムに関することについてもそれぞれの学校の状況や参考になる情報を提供して下さったりと大変充実したひとときを体験させていただくことができました。私自身今回のように他府県の教頭・副校長先生方と関わる機会がはじめてでしたので、もちろんコミュニケーションを図る上でも大きく影響を受けましたが、生徒の人格を形成するためには何が必要で何をしなければならないかを常に考えながら業務に携わることはどこも同じなのだ大変強く感じたのを覚えています。

今回はたまたま北海道の代表として参加させていただきましたが、この2日間で定時制、通信制高校における情報交換をはじめ都道府県の特徴や新潟県の文化など非常に多くのものと出会うことができました。

この経験をもとに現在本校が抱えている課題に積極的に取り組んでいくことができることとと思っています。

最後に本大会の運営に早期から着手され充実した教育研究会としていただいた全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会北信越支部ならびに新潟県高等学校定時制通信制教育協会副校長部会の皆様に感謝の意を述べさせていただきます。本当にありがとうございました。



(会場から見える信濃川と萬代橋)



第63回北海道高等学校定時制通信制生徒  
生活体験発表大会報告

北海道有朋高等学校教頭 松田素寛

第63回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会は令和元年10月10日（木）に札幌市教育文化会館において開催されました。関係各位の多大なるご指導とご協力をいただき、無事終えることができました。大会運営の当番校として心から感謝申し上げます。今年度は、全道9支部の定時制高等学校の代表者10名と通信制高等学校の代表者1名、そして、当番校校として北海道有朋高等学校より1名の計12名の代表が集い、それぞれの貴重な体験が発表されました。置かれた環境や様々な困難を乗り越えて生きていく力強さ、将来の夢の実現に向かって地道に努力するひたむきさ、家族や友達、先生への感謝の思いなど、すべての発表に前向きに生きていこうとする強い意志が表れていました。参観していた生徒の皆さんはもとより、ご来賓をはじめ多くのご来場の皆様にも大きな感動を与える素晴らしい内容の発表ばかりでした。

審査は全国大会の審査基準に準じ、審査委員長である北海道札幌琴似工業高等学校長 高橋豪様をはじめ5名の審査員により発表内容、発表方法について慎重に審査していただきました。北海道代表として選ばれた北海道有朋高等学校及び北海道千歳高等学校の2名の生徒は、自信と誇りを持って全国大会に臨み、その力を存分に発揮してくれたものと思います。本大会の詳細な内容につきましては、令和2年1月末発行する「輝く青春」第53集に掲載し、全道の定時制・通信制の学校にお届けしますので是非ご覧いただき、定時制・通信制に通いながら夢の実現を目指す生徒達の思いを感じ取っていただければ幸いです。終わりになりますが、会場の札幌市教育文化会館の皆様をはじめ、全道の定通教育に携わっているすべての方々、ご協力をいただきました関係各位にこの場をお借りして感謝を申し上げ、報告とさせていただきます。



第63回 北海道高等学校定時制通信制生徒 生活体験発表大会 2019.10.10 札幌市教育文化会館

## 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

石狩支部長

北海道札幌琴似工業高等学校教頭 長谷 哲生

### 1 石狩支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会石狩支部は、道立高11校、札幌市立高1校、私立高2校、18名の会員で構成されています。北海道高等学校長協会定通部会、石狩支部校長会並びに北海道教頭・副校長会石狩支部のご指導・ご支援をいただきながら、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会の下部組織として自主的に組織運営を進めています。

### 2 支部事業

#### <研究協議会>

事業計画等の審議を行い、会務の適正かつ円滑な運営を図るとともに、研究協議や情報交換を通して、学校間の連携・協力体制を密にするとともに、教頭・副校長としての資質・能力の向上を図ることを目的に年2回(4月・2月)実施されています。

議題等は次のとおりです。

#### ○ 第1回研究協議会(千歳高校)

役員選出、事業計画、関連事業計画、定通部会石狩支部各種当番校・事務局校の確認、定通関係諸行事および会議等の確認、情報交換、北海道教育庁石狩教育局からの指示・連絡および指導・助言等

#### ○ 第2回研究協議会(札幌北高校)

事業中間報告、次年度事業計画案、全国定時制通信制教頭・副校長会全国常任理事研究協議会報告、北海道高等学校教頭・副校長会定通部会「会報」の編集作業状況報告、情報交換、北海道教育庁石狩教育局からの指示・連絡および指導・助言等

### 3 支部関連事業

#### (1)平成31年度北海道高等学校教頭・副校長会総会・第1回研究協議会

i 開催日 5月15日(水)・16日(木)

ii 場所 ホテルライフオーブ札幌

#### (2)令和元年度石狩管内定時制(単位制)・通信制高等学校教育振興会常任理事会・総会

i 開催日 6月7日(金)、2月4日(火)

ii 場所 北海道札幌北高等学校

iii 内容 事業報告および事業計画案協議

(3)第63回石狩支部高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会

i 開催日 9月13日(火)

ii 場所 北海道札幌工業高等学校(当番校)

iii 結果

最優秀賞 北海道有朋高等学校(全道：最優秀賞)

【全国出場】

優秀賞 北海道千歳高等学校(全道：優秀賞)

【全国出場】

優秀賞 北海道札幌工業高等学校

(4)令和元年度北海道高等学校定時制通信制体育連盟石狩支部大会

ア 開催日 5月18日(土)～6月2日(日)

イ 場所 支部高等学校および美香保球場

ウ 結果(優勝校等)

(ア)柔道

男子団体 北海道札幌工業高等学校

男子65Kg級 北海道札幌南高等学校

男子90Kg級 北海道札幌工業高等学校(全道1位)

【全国出場】

男子90Kg超級 北海道札幌工業高等学校(全道1位)

【全国ベスト8】

(イ)バスケットボール

男子 市立札幌大通高等学校(全道1位)

【全国ベスト8(2年連続)】

女子 市立札幌大通高等学校(全道1位)

【全国出場】

(ウ)バドミントン

男子団体 北海道札幌月寒高等学校(全道1位)

【全国準優勝(3年連続)】

女子団体 市立札幌大通高等学校(全道2位)

男子個人 北海道札幌月寒高等学校(全道1位)

【全国ベスト8】

女子個人 北海道札幌北高等学校

(エ)バレーボール

男子 市立札幌大通高等学校(全道2位)

女子 市立札幌大通高等学校(全道2位)

【全国出場】

(オ) 卓球	
男子団体	北海道有朋高等学校(通単合同) (全道1位) 【全国出場】
女子団体	市立札幌大通高等学校(全道1位) 【全国出場】
男子個人	北海道有朋高等学校(単位制) (全道1位) 【全国第3位】
女子個人	市立札幌大通高等学校(全道1位) 【全国出場】

(カ) サッカー  
学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校(全道1位)  
【全国出場】

(キ) 軟式野球  
学校法人創志学園 クラーク記念国際高等学校  
(全道3位)  
※準優勝 学校法人三幸学園 飛鳥未来高等学校  
(全道1位)  
【全国出場】

#### 4 まとめ

近年、経済社会の変化や少子化の進行に伴って勤労青年は年々減少しています。石狩管内の定時制(単位制)課程では、平成31年度入学生において、一部の高等学校を除いては大きく定員割れしている状況であります。しかし、現在、定時制(単位制)課程・通信制課程の高等学校には、小中学校時代に不登校を経験している者、高等学校入学後、進路変更により転編入する者など、様々な入学動機や学習歴を持つ生徒が数多く在籍しています。今後も様々な課題を抱えた生徒が高校進学を希望することが考えられ、定時制(単位制)課程・通信制課程の果たす役割が更に大きくなってきています。定時制課程は今まで通り勤労青年に対する「学びの場」であるとともに、定時制(単位制)課程・通信制課程は「学び直しの場」としての役割を果たさなければなりません。したがって、我々はこれからも、多様なニーズに応え、特色ある教育活動を展開している定時制(単位制)課程・通信制課程の高等学校の存在を様々な機会をとらえて、広く伝えていかなければならないと考えます。

#### 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会  
後志支部長

北海道留寿都高等学校教頭 菅原光男

#### 1 後志支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会後志支部は、北海道小樽潮陵高等学校・北海道小樽未来創造高等学校・北海道ニセコ高等学校・北海道真狩高等学校・北海道留寿都高等学校の5校により運営されています。毎年4月に総会、9月に後志地区生活体験発表大会が実施されています。夜間定時制2校、昼間定時制3校の各学校は、地域の特性を最大限に取り入れ、多様なニーズに応え、生徒に寄り添った「学びの場」を創造・実践しております。

#### 2 定通体連後志支部大会

定通体連後志支部大会は5月25日(土)に小樽、ニセコ、留寿都で全道大会の出場権をかけて各種競技が行われた。結果は次のとおりです。(準優勝以上)

##### 【バスケットボール】

団体男子 優勝 真狩高等学校  
準優勝 ニセコ高等学校  
団体女子 優勝 ニセコ高等学校  
準優勝 留寿都高等学校

##### 【バドミントン】

団体男子 優勝 真狩高等学校  
団体女子 優勝 真狩高等学校  
準優勝 ニセコ高等学校  
個人男子 優勝 辻 愛儀斗(真狩)さん  
準優勝 松村 渉夢(ニセコ)さん  
個人女子 優勝 遠藤 咲希(留寿都)さん  
準優勝 島口 美咲(真狩)さん

##### 【卓球】

団体男子 優勝 ニセコ高等学校  
準優勝 留寿都高等学校  
団体女子 優勝 留寿都高等学校  
準優勝 ニセコ高等学校  
個人男子 優勝 小林 麟太郎(ニセコ)さん  
準優勝 清水 大志(ニセコ)さん  
個人女子 優勝 神原 小夏(留寿都)さん  
準優勝 齊藤 野の花(ニセコ)さん

##### 【バレーボール】

団体男子 優勝 真狩高等学校  
団体女子 優勝 真狩高等学校

上記選手・団体の内、全道大会を勝ち抜け、定通体連全国大会に、バレーボール団体男子・団体女子、バドミントン団体女子・個人女子、卓球団体女子・個人女子が北海道代表として出場しました。

### 3 生活体験発表大会【9月10日（火）】

本大会は北海道小樽潮陵高等学校を会場として行われた。各学校の校内選考を勝ち抜いた代表1名、計5名による発表が行われ、僅差で北海道真狩高等学校川西 杏（1年生）さんが優勝となり、全道大会へ出場しました。各選手は、自己の体験をわかりやすく表現して、発表に取り組んでいました。特に、学校生活や学校行事等を元に、説得力のある発表が上位に入賞していました。



## 4 各校の教育活動

### (1) 北海道小樽潮陵高等学校

本校では、修学年数を有朋高校通信制課程と連携して、学習状況や希望を踏まえ、『全日制生徒と同じように3年間で卒業したい』、『4年間ゆっくり学びたい』など、生徒の希望に対応しています。「総合的な学習」の時間などで、学力や学習意欲の向上を図るため、「On-time」（学び直し）を行い、先生方全員で一人ひとりの能力に即して手厚く勉強を教えています。「勉強をやり直したい、高校を再スタートしたい」様々な生徒のニーズに対応して生徒を育成しています。

### (2) 北海道小樽未来創造高等学校

本校では、校訓「自立・敬愛・創造」に、学校教育目標「自律心、倫理観、規範意識、社会性の涵養」「健康・安全、協働・敬愛の精神の醸成」「専門的な知識や技術、実践力、創造力の育成」のもと、ものづくり教育や人づくり教育を推進しています。今までできなかったこと

ができるようになることで、その小さな積み重ねが大きな「誇り」になるような人間を育成しています。

### (3) 北海道ニセコ高等学校

ニセコの農業・農村、そして大自然が秘める教育力を活用して、新しい時代を担う農業経営者と、緑を大切に新しい観光産業人を養成することを目標としています。全国で唯一緑地観光科を設置している学校です。目標に応じて農業科学コースと観光リゾートコースを設けています。ニセコ高等学校は、生徒の無限の力を引き出すサポートを推進しています。

### (4) 北海道真狩高等学校

創立71年を迎え「我が村の高校」として、地域と密接に連携した農業高校です。有機 JAS 認証圃場で農業を学ぶ「有機農業コース」と、製菓衛生師の国家資格を取得でき、野菜製菓の開発を行う「野菜製菓コース」があり、その教育活動の中で、地域の方々と一緒になって課題解決に取り組み、共同開発や食育活動を行っています。

### (5) 北海道留寿都高等学校

本校は、農業と福祉の専門教育を進めながら、作物や草花を育て、様々な実習に取り組みながら「豊かな心」を育てる教育を推進しています。多岐に渡る校外実習活動は、長期の農家実習や福祉施設実習、養護学校との交流会、様々な地域行事や販売会などを企画・参加して、社会人としての基礎を身につけることを支援します。生徒自身が、自己実現を目指して、「新たな挑戦」を続ける自立できる生徒を育成しています。

## 支部だより

北海道高等学校教頭・副校長会定通部会

日勝支部長

北海道帯広柏葉高等学校教頭 新山 豊

### 1 日勝支部の概況

北海道高等学校教頭・副校長会日勝支部は、現在、帯広柏葉高等学校と日高高等学校の2校で構成されています。平成29年度に音更高等学校定時制が、平成30年度に帯広農業高等学校定時制が閉課となり、学校数や生徒数が減少する中、相互に連携を深めながら定時制教育の推進に向け活動しています。

また、日勝地区定時制通信教育振興会の支援をいただき、連携・協力して、定体連、生活体験発表大会等の運営を行っています。

### 2 支部関連事業

(1) 令和元年度(2019年度)北海道高等学校定時制通信制体育連盟日勝支部予選会

ア 期 日 令和元年(2019年)5月31日(金)

イ 場 所 帯広の森体育館

ウ 参加校 北海道帯広柏葉高等学校

北海道日高高等学校

星槎国際高等学校

エ 結 果

(ア) バスケットボール

優 勝 日高高等学校

準優勝 星槎国際高等学校

3 位 帯広柏葉高等学校

(イ) バドミントン

男子団体

優 勝 日高高等学校

男子個人

優 勝 星槎国際高等学校

馳 尚也

準優勝 日高高等学校

齋藤 海依

3 位 日高高等学校

梅屋 春雄

(ウ) 卓球

男子団体

優 勝 星槎国際高等学校

準優勝 日高高等学校

女子団体

優 勝 星槎国際高等学校

男子個人

優 勝 星槎国際高等学校

長崎 大洋

準優勝 星槎国際高等学校

小高 諒汰

3 位 日高高等学校

稲葉 龍星

女子個人

優 勝 星槎国際高等学校

佐藤 希美

準優勝 星槎国際高等学校

福田 実央

3 位 星槎国際高等学校

佐藤みのり

この他にも各校の全校生徒が参加して大縄跳びを実施し、交流を深める良い機会となりました。

(2) 第63回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会日勝地区予選会

ア 期 日 令和元年(2019年)8月27日(火)

イ 場 所 北海道帯広柏葉高等学校(当番校)

ウ 参加数 北海道帯広柏葉高等学校 4名

北海道日高高等学校 4名

エ 結 果

最優秀賞(全道大会出場)

帯広柏葉高等学校

長崎 真智子

「高校生に年齢制限はありますか」

優秀賞

日高高等学校

菊池 万葉

「捻くれ者の3年間」

山田 康介

「プラーシーボ効果」

帯広柏葉高校

熊谷 陽久

「中学時代の自分と今の自分」

### 3 まとめ

日高高校においては、地域と密接に連携・協働しながら、地域の求める人材の育成を目標にした教育活動を行っています。

柏葉高校においては「勤労学生のために学びの場」というかつての定時制の役割から、様々な事情を抱えて入学して来る生徒達に「学び直し」の機会を提供する役割が重要になってきています。

今後、授業改善や生徒指導・進路指導は、この役割を十分に踏まえたうえで進めていく必要があると感じています。

高等学校定時制通信制体育大会報告  
北海道高等学校定時制通信制体育連盟事務局長  
市立札幌大通高等学校教頭 池田 吉利

令和元年度の事業につきましては、おかげさまで、関係各位のご尽力により、すべて滞りなく終えることができました。各支部事務局校、当番校、専門委員のみなさまにおかれましては、春の支部大会に始まり北海道大会、秋季新人戦まで円滑に運営していただき、改めて心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度の北海道大会及び全国大会の成績につきましては、事務局（市立札幌大通高等学校）のWebサイト（<http://www.odori-h.sapporo-c.ed.jp/teitairon/>）に掲載しております。是非ご覧いただきたいと思っております。

今年度も北海道チームの活躍は目覚ましく、バドミントン男子団体では札幌月寒高校・飛鳥未来高校合同チームが、昨年に続き準優勝（3年連続）、バスケットボール男子では大通高校がベスト8（2年連続）、卓球男子個人では有朋高校の神内 柊選手が第3位、柔道男子個人90kg超級で札幌工業高校の佐久間 大心選手が第5位など、特筆すべき結果を残しております。定時制通信制という決して恵まれない環境のもと、日々努力を重ね精進した選手、そしてその指導に当たられた顧問の皆さまに、心より敬意を表します。

道内では生徒数が減少し、それに伴う教員数の減少があり、その結果大会の運営が困難な状況にもありますが、ご理解・ご協力をお願いする次第であります。また、定時制通信制の大会では、記録や勝敗だけにこだわらず、スポーツを愛する心や目標に向かって挑戦すること、お互いの健闘をたたえ合い認め合う、そして交流して友情の輪を広げることを大切にしています。この理念のもと、健全な青少年育成を目指し、引き続き各校での部活動へのご指導ご協力をお願い申し上げます。今年度も、大変お世話になりました。ありがとうございました。次年度もよろしく申し上げます。

第51回北海道高等学校給食研究協議会  
北海道大会 報告  
北海道札幌北高等学校教頭 木村 嘉延

令和元年7月26日（金）に第51回北海道高等学校給食研究協議会北海道大会が札幌北高校を会場にして開催され、全道から多くの給食担当者が参加した。

1 理事総会・研究協議会

(1) 報告事項

- ア 令和元年度活動計画及び中間報告
  - イ 令和5年度までの各種輪番等の確認
- (2) 協議事項 次年度以降の予算について
- (3) その他 給食研の活動について（意見交換）

2 第51回北海道大会

(1) 講演

講師 藤女子大学人間生活学部食物栄養学科

教授 村田 まり子 氏

演題 「給食の役割～食の自己管理～」

要旨 学校給食の役割について、及び、日本人の食生活、衛生管理等について

1. 学校給食の役割について
  - ①学校給食の現状
  - ②給食の歴史
2. 日本人の食生活
3. 衛生管理について
  - ①衛生管理基準の解説
  - ②食物アレルギーについて
4. まとめ ヒポクラテスの健康に関する名言

(2) 研究発表

発表 北海道岩見沢東高等学校

教頭 松尾 幸広 氏

テーマ 「北海道岩見沢東高等学校の給食状況と課題」

要旨 岩見沢東高校における給食の状況について

1. 学校の状況
2. 食の意義や役割
3. アレルギーへの対応
4. 給食週間の取組
5. まとめと課題
  - ①喫食数の確保について
  - ②食事時間について
  - ③給食施設の充実について

# 令和元年度北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制会調査研究報告

## 定時制通信制課程における「総合的な探究の時間」の充実について

### 定時制通信制部会調査研究部

調査研究部長 相馬 利幸（北海道札幌西高等学校）

調査研究部員 伊東 文人（北海道札幌南高等学校）

調査研究部員 木村 嘉延（北海道札幌北高等学校）

調査研究委員 国枝 拓（北海道恵庭南高等学校）

## 1 はじめに

生徒の多様な学習スタイルを可能とする定時制・通信制課程は、従来からの勤労青年のための教育機関としての役割だけではなく、生徒の多様な学びのニーズへの対応や、生涯学習の機能を果たしているところであるが、グローバル化の進展や生産年齢人口の急減など、社会変動が大きな今日では、社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に求められている。

こうした中、平成30年3月30日に公示された高等学校学習指導要領では、総合的な学習の時間について、名称を「総合的な探究の時間」に変更され、小・中学校における総合的な学習の時間の取組を基盤とした上で、各教科・科目等の特質に応じた「見方・考え方」を総合的・統合的に働かせることに加えて、自己の在り方生き方に照らし、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら「見方・考え方」を組み合わせさせて統合させ、働かせながら、自ら問いを見だし探究する力を育成することとなっている。

なお、平成31年4月1日から新高等学校学習指導要領が適用されるまでの移行期間は学習指導要領の特例が定められており、平成31年4月1日以降に高等学校に入学した生徒については、従来の「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に改め、新高等学校学習指導要領によることとなっており、総合的な探究の時間の目標を踏まえた取組が求められている。

そこで、各校の「総合的な探究の時間」の取組状況を共有し、今後の取組の参考としたいと考え、調査・研究に取り組んだ。

## 2 アンケート調査の概要

調査は、質問紙によるアンケート（選択方式及び記述方式）によって実施した。

対象は、北海道高等学校教頭・副校長会定時制通信制部会に加盟する全43校とし、調査期間は令和元年10月16日（火）～同年11月8日（金）とした。全38校から回答が得られ、回収率は88%であった。

このアンケート結果を基に調査研究部会で検討し、調査研究報告とする。

## 3 アンケートの質問内容

### 1 基本事項

設問1-1 単位数（学年毎）

ア 1学年（ ）単位      イ 2学年（ ）単位

ウ 3学年（ ）単位      エ 4学年（ ）単位

設問1-2 実施方法

ア 週時程に位置付けて実施（実施予定）

イ 週時程に位置付けず、年間を通して実施（実施予定）

ウ 週時程に位置付けず、特定の期間に実施（実施予定）

設問1-3 担当分掌

- ア 教務                      イ 生徒指導                      ウ 進路指導
- エ 委員会                      オ 各学年                      カ その他 (                      )

設問1-4 全体計画

- ア 作成済み                      イ 作成中                      ウ 作成するか検討中
- エ 作成する予定はない                      オ その他 (                      )

設問1-5 年間指導計画

- ア 作成済み                      イ 作成中                      ウ 作成するか検討中
- エ 作成する予定はない                      オ その他 (                      )

**2 探究課題**

設問2-1 総合的な探究の時間の目標を実現するにふさわしい探究課題を設定していますか。

- ア 設定済み                      イ 検討中                      ウ その他 (                      )

設問2-2 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題を設定していますか。

- ア 設定済み                      イ 検討中                      ウ その他 (                      )

設問2-3 地域や学校の特色に応じた課題を設定していますか。

- ア 設定済み                      イ 検討中                      ウ その他 (                      )

設問2-4 生徒の興味・関心に基づく課題を設定していますか。

- ア 設定済み                      イ 検討中                      ウ その他 (                      )

設問2-5 職業や自己の進路に関する課題を設定していますか。

- ア 設定済み                      イ 検討中                      ウ その他 (                      )

設問2-6 その他、設定している課題がありましたら、ご記入ください。

**【参考】課題の具体例**

- |   |
|---|
| <p>① 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の生活者とその人たちの多様な価値観 (国際理解)</li> <li>・情報化の進展とそれに伴う経済生活や消費行動の変化 (情報)</li> <li>・自然環境とそこに起きているグローバルな環境問題 (環境)</li> <li>・高齢者の暮らしを支援する福祉の仕組みや取組 (福祉)</li> <li>・心身の健康とストレス社会の問題 (健康)</li> <li>・社会生活の変化と資源やエネルギーの問題 (資源エネルギー)</li> <li>・食の問題とそれに関わる生産・流通過程と消費行動 (食)</li> <li>・科学技術の発展と社会生活や経済活動の変化 など (科学技術)                      など</li> </ul> <p>② 地域や学校の特色に応じた課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活性化に向けた特色ある取組 (町づくり)</li> <li>・地域の伝統や文化とその継承に取り組む人々や組織 (伝統文化)</li> <li>・商店街の再生に向けて努力する人々と地域社会 (地域経済)</li> <li>・安全な町づくりに向けた防災計画の策定 (防災)                      など</li> </ul> <p>③ 生徒の興味・関心に基づく課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化や流行の創造や表現 (文化の創造)</li> <li>・変化する社会と教育や保育の質的転換 (教育・保育)</li> <li>・生命の尊厳と医療や介護の現実 (生命・医療)                      など</li> </ul> <p>④ 職業や自己の進路に関する課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業の選択と社会貢献及び自己実現 (職業)</li> <li>・働くことの意味や価値と社会的責任 (勤労)                      など</li> </ul> |
|---|

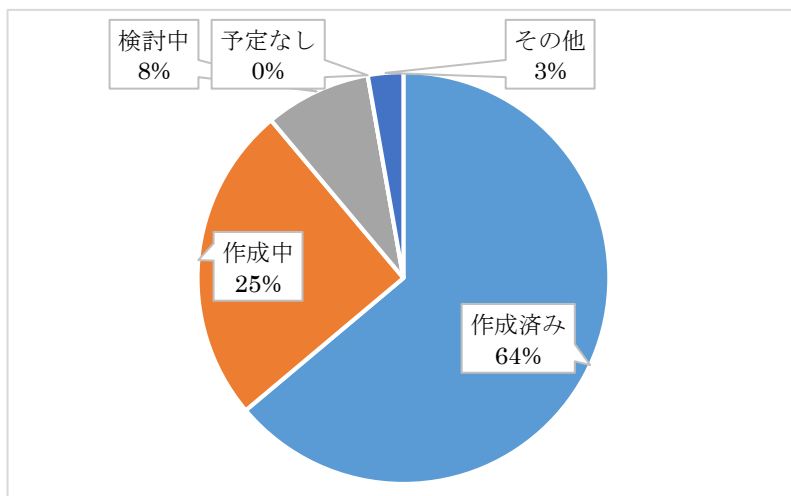




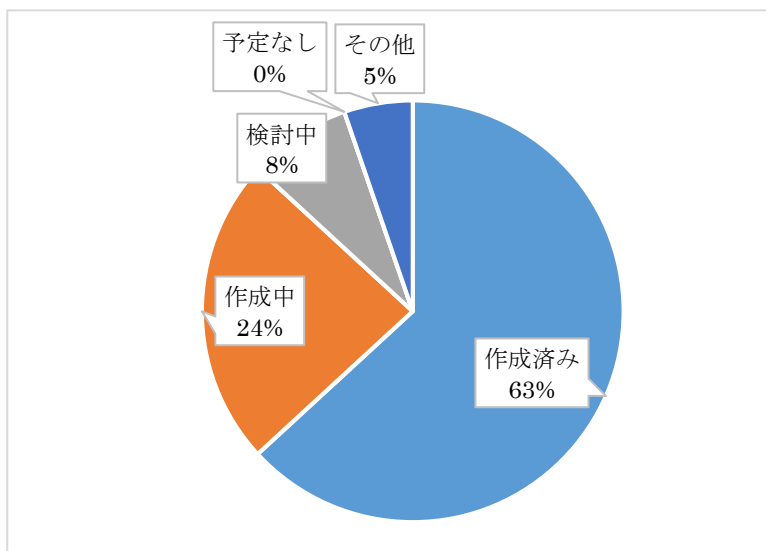
【その他の内容】

- ・キャリア推進部
- ・課題研究代替のため各学科（4校）
- ・総合的な探究の時間運営委員会
- ・検討委員会
- ・総合学習検討委員会
- ・実習部（2校）
- ・教務と学科
- ・学年と学科

設問1-4 全体計画



設問1-5 年間指導計画

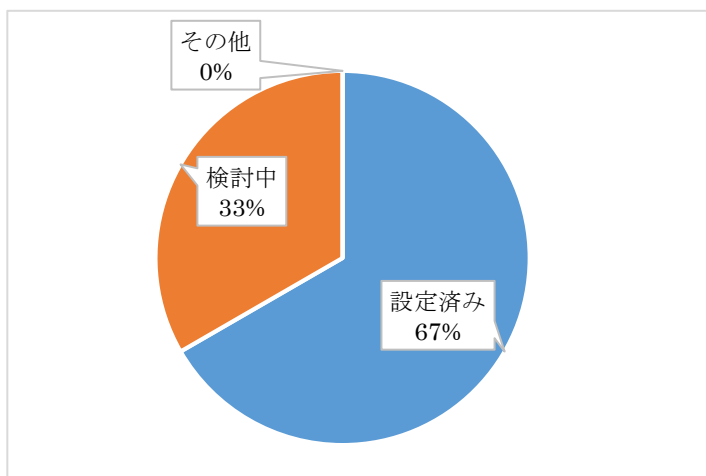


【考察】

全体計画、年間計画共に作成済み若しくは作成中と答えた学校が約9割を占めた。担当分掌も様々で、それぞれの学校における全教育活動との関連の下に指導体制を構築していると考えられる。

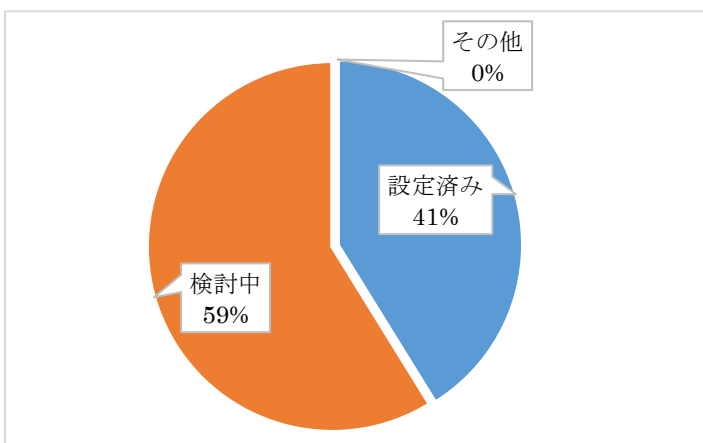
## (2) 「探究課題」について

### 設問2-1 目標を実現するにふさわしい探究課題



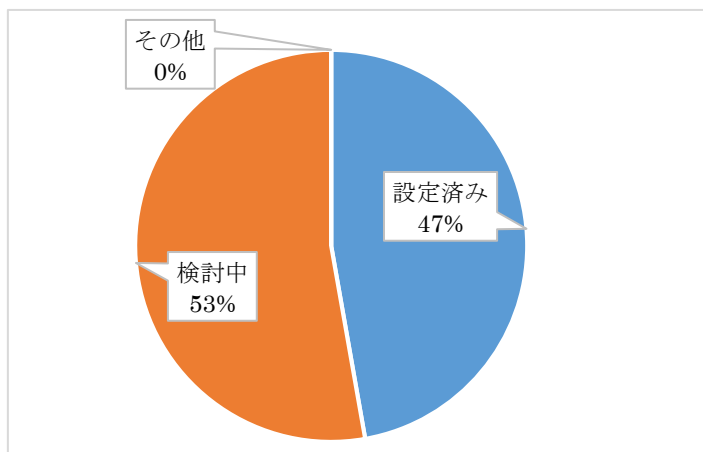
約7割の学校が総合的な探究の時間の目標を実現するにふさわしい課題を設定していると答えている。このことから、比較的多くの学校がそれぞれの学校の実態に応じた課題設定が行われていることが分かる。

### 設問2-2 横断的・総合的な課題



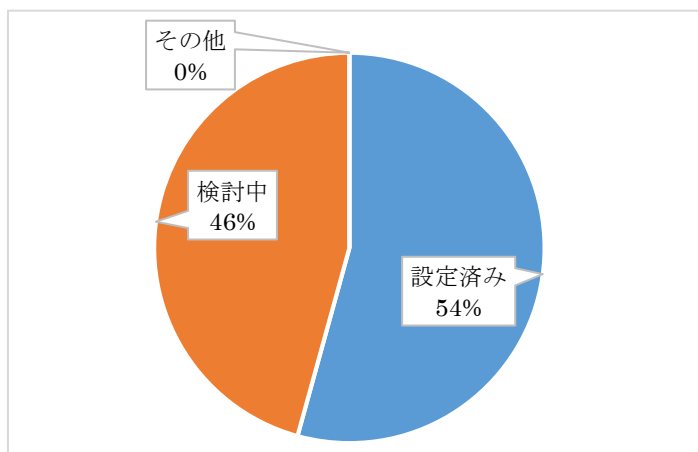
設定済みの学校が4割程度に留まっている。

### 設問2-3 地域や学校の特色に応じた課題



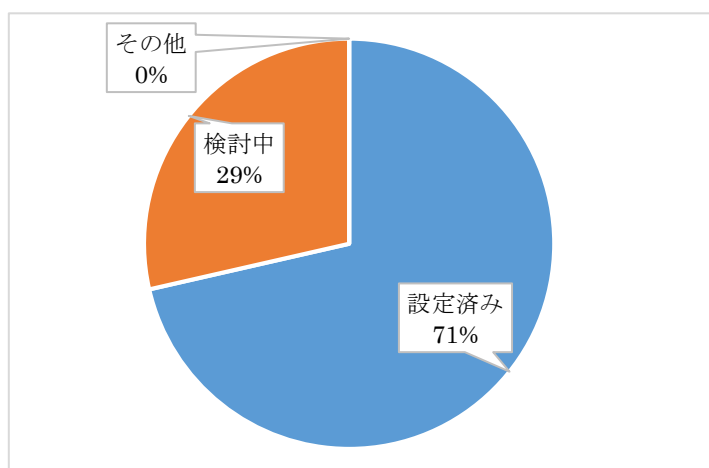
設定済みの学校が5割程度に留まっている。

#### 設問2-4 生徒の興味・関心に基づく課題



設定済みの学校が5割程度に留まっている。

#### 設問2-5 職業や自己の進路に関する課題



約7割の学校が職業や自己の進路に関する課題を設定済みと答えており、職業や進路といったなじみのある内容については比較的高い数値となっている。

#### 設問2-6 その他の設定課題

- ・農業と福祉に関する取組
- ・食の問題とそれに関わる生産・流通過程と消費行動
- ・勤労意欲の向上

#### 【考察】

新学習指導要領の解説では、総合的な学習の時間の課題を踏まえて、総合的な探究の時間においては、より探究の課程を充実させ、教科横断的・総合的な学習を重視している。新学習指導要領「第4章 総合的な探究の時間」の「第1 目標」では、探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指すとして3点が述べられている。(1) 探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。(2) 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(3) 探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。さらに、「第2 各学校において定める目標及び内容」の「3 各学校において定める目標及び内容の取扱い」においては、(5)で目標を実現するにふさわしい探究課題については、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的

な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などを踏まえて設定することと述べられ、より具体的に探究課題が設定されている。

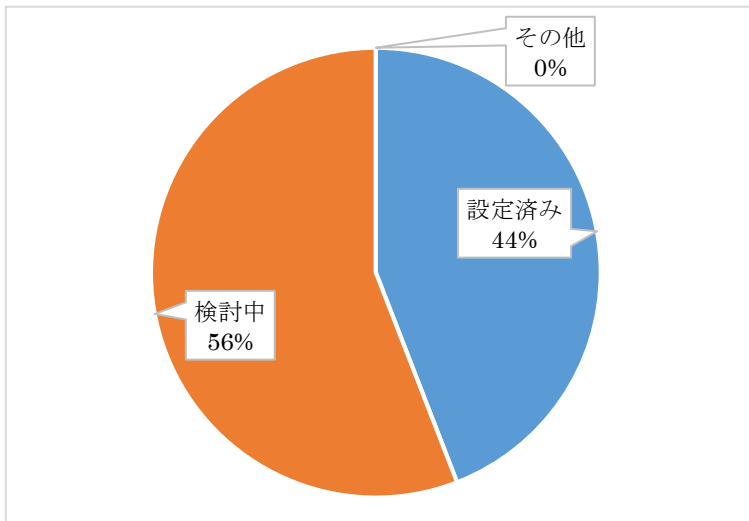
設問2については、このように示されている探究課題について各学校の取組状況を調査したものである。アンケート結果から課題が見られる点は、設問2-2から設問2-4の内容で、設定済みの学校が半数程度となっている。特に設問2-2 現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題を設定しているかの問いに対しては、設定済みが4割程度に留まっている。このことは、新学習指導要領で特に求められている教科横断的な視点に立った資質・能力の育成を図ることが、総合的な探究の時間の実施において最も重要な課題となっていることを意味しているのではないだろうか。

高等学校学習指導要領解説の総合的な探究の時間編において、「第2節総合的な探究の時間改訂の趣旨及び要点」の「1 改訂の趣旨」には総合的な学習の時間の反省として、総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総合的な学習の時間と各教科・科目等との関連を明らかにすることについては学校により差がある。これまで以上に総合的な学習の時間と各教科・科目等の相互の関わりを意識しながら、学校全体で育てたい資質・能力に対応したカリキュラム・マネジメントが行われるようにすることが求められていると述べられ、名称が学習から探究へ変更されても同様の課題が浮き彫りとなっている。

各学校においては、先行実施されている総合的な探究の時間の充実に向けてより一層の創意工夫が求められる。

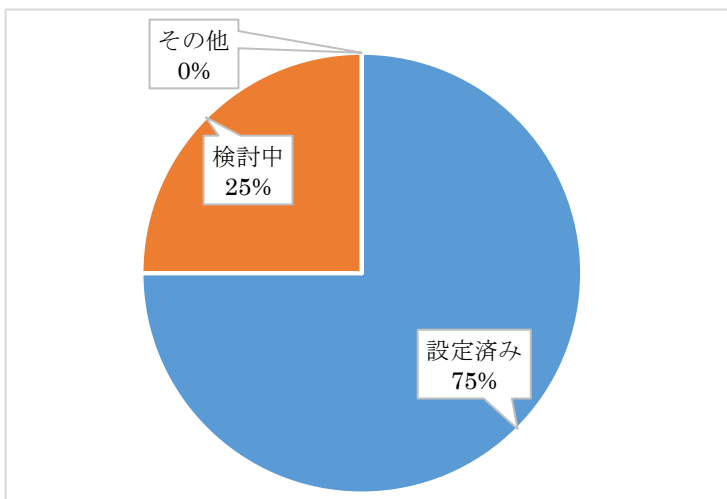
### (3) 「学習内容、学習指導の改善」について

#### 設問3-1 資質・能力を相互に関連付けて活用する探究活動



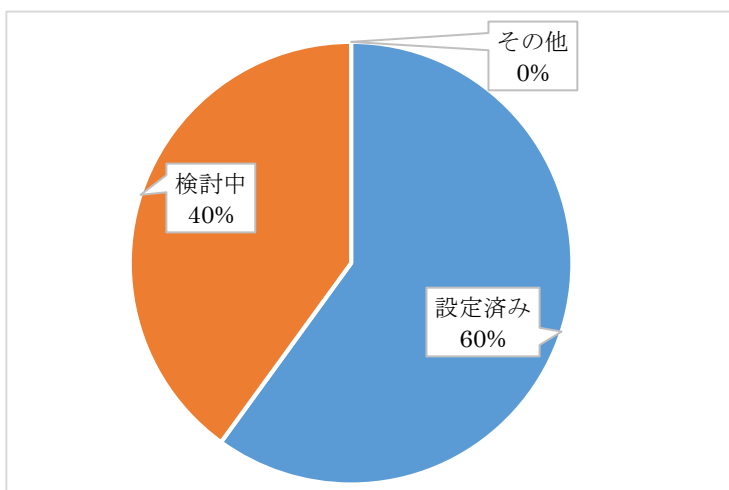
半数以上が検討中という結果となった。専門学科を設置している高校では、専門科目と結び付けて設定済みの学校が多く、特に農業科は100%設定済みとなっている。

#### 設問3-2 他者と協働して課題を解決しようとする学習活動



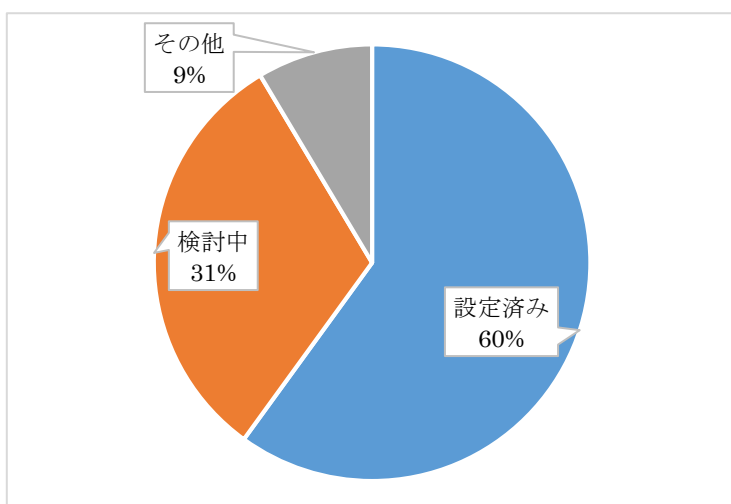
設定済みの学校が4分の3を占めた。課題を解決するプロセスで、「他者との協働」が不可欠であることを前提に取り組んでいる学校が多いことが分かる。検討中の高校は、いずれも夜間定時制課程の高校であった。

設問3-3 言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動



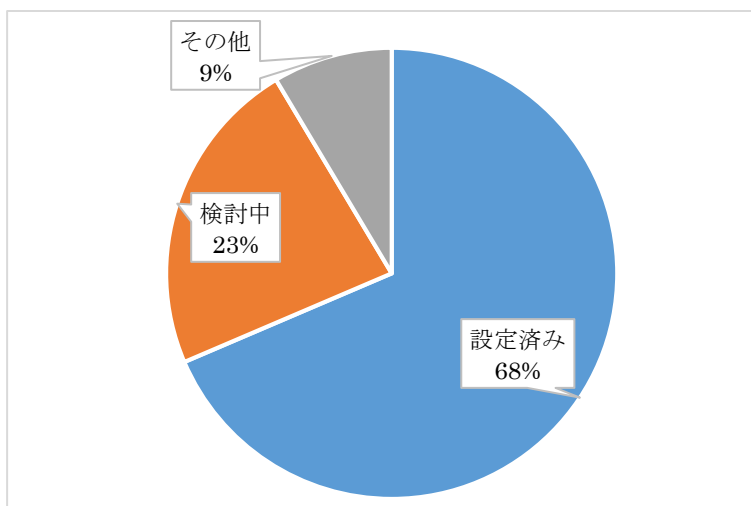
設定済みの学校が6割という結果であった。生活体験発表を「総合的な探究の時間」の学習活動として位置付けている高校も多い。

設問3-4 コンピュータなどを活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動



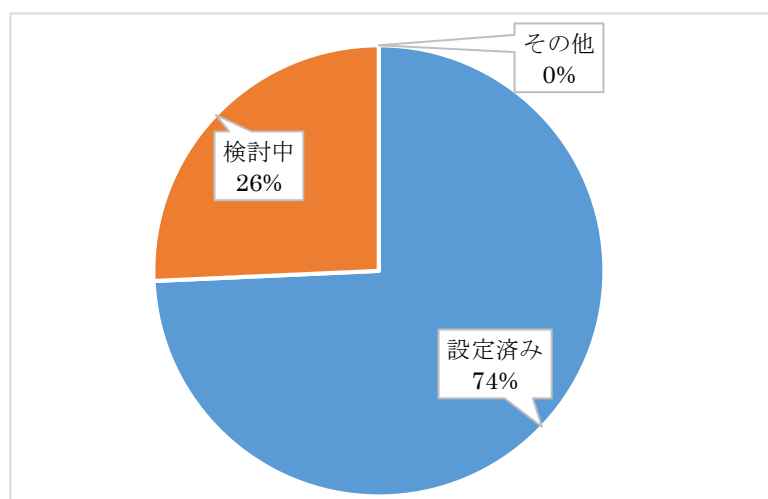
設定済みの学校が6割という結果であり、ほぼ設問3-3と同様の結果となった。その他については、設定するかどうかも含めて今後検討するという高校であり、1割弱あった。

設問3-5 観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動



設定済みの学校が7割を超えている。専門学科を設置している高校では、「課題研究」を読み替えて教科の中で指導しているも多い。その他については、今後検討する高校と、検討した結果設定する予定がない高校である。

### 設問3-6 自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動



設定済みの学校が7割を超えている。検討中の高校はいずれも夜間定時制課程の高校で、体験学習をする上で、時間的な制約があることが考えられる。

#### 【考察】

新学習指導要領の解説では、総合的な探究の時間において教科・科目等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力を育成するため、課題を探究する中で、他者と協働して課題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりする学習活動（比較する、分類する、関連付けるなどの「考えるための技法」を自在に活用する）、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用して、情報を収集・整理・発信する学習活動（情報や情報手段を主体的に選択し活用できるようにすることを含む）を行うよう示されている。また、自然体験や就業体験活動、ボランティア活動などの社会体験、ものづくり、生産活動などの体験活動、観察・実験・実習、調査・研究、発表や討論などの学習活動を積極的に取り入れること等は引き続き重視するよう示されている。

設問3については、このように示されている学習内容、学習指導の改善について各学校の取組状況を調査したものである。

アンケート結果から学習活動については、多くの学校において様々な工夫がなされており、特に専門学科においては、学科の特性を生かした教育活動が展開されていることが分かる。反面、各教科・科目等で育成する資質・能力を相互に関連付けて活用する探究活動を設定している学校は、半数以下であり、設問2と同様に教科横断的な視点に立った資質・能力の育成が課題となっていると考える。

#### (4) 「実践」について

##### 設問4-1 特色ある探究課題や他校の参考となる探究課題。

- ・自分らしい「自立」の在り方（市立札幌大通）
- ・小樽市で開催される行事「小樽雪あかりの路」への参加（小樽潮陵）
- ・地域野菜の調査研究、農福融合の研究、持続可能な農業生産の振興（留寿都）
- ・3年間の年間指導計画を作成し、学び直しによる進路探究を設定（日高）
- ・中定 before,after 入学してからの自分を考える（自己理解）（函館中部）
- ・時間割上では「主体的活動」として取り入れている（幌加内）
- ・全教員による、生徒の興味関心に応じたグループ作りによる探究課題の設定と、調査・探究活動（遠軽）
- ・他者との関わりを通して、自己肯定感を高め、社会の一員としての意識を涵養すること（網走南ヶ丘）
- ・防災、健康安全に関する課題、職業や自己の進路に関する課題（釧路湖陵）

設問4-2 特色ある学習活動や他校の参考となる学習活動。

- ・4年間を通じて「自己探究活動」「地域探究活動」の2つの柱で学習を進めている（市立札幌大通）
- ・「選択講座」として教員の特技等を生かした講座を開講。事前ガイダンスの説明を聞いて生徒が選択し、少人数制で実施。8時間予定（恵庭南）
- ・地域と連携したボランティア活動、各週専門学校及び企業と連携した体験活動（札幌西）
- ・専門学校見学（体験含む）会（札幌東）
- ・ソーシャルスキルトレーニングを、1～3年生で各6時間実施（札幌北）
- ・ニセコ町コミュニティスクールを活用した、教育活動（ニセコ）
- ・本校では、様々な講演・外部講師による特別授業に加えて、11時間程度の「講座」を設定して、生徒の興味・関心の喚起をねらいとした取組を行っている（室蘭栄）
- ・日高町教育委員会と連携・協働した産業学習（日高）
- ・地域と連携したボランティア活動や様々な就業体験活動（稚内）
- ・キャリア教育（遠軽）
- ・地域と連携した防災教育及び学校祭（網走南ヶ丘）
- ・ポスター作成、ポスターセッション、デスクトッププレゼンテーション（釧路湖陵）

#### 【考察】

各学校において定める内容や目標を実現するにふさわしい研究課題については、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて設定していることがうかがえた。他教科との横断的・総合的な取り組みや、人間性等を含めた他者や社会との関わりについても積極的に取り組んでいると感じた。

## 5 おわりに

---

本道の定時制・通信制課程においては、総合的な探究の時間の実施に当たり、各学校における教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえ、教育課程全体の中での総合的な探究の時間の位置付けや他教科等の目標及び内容との違いに留意しつつ、主体的かつ創造的に指導計画を作成し、学習活動を展開しているところである。

各学校が地域や学校、生徒の実態や特性を考慮して総合的な探究の時間の設定し、創意工夫を生かした探究や横断的・総合的な学習を実施することは、各学校のカリキュラム・マネジメントの中核として期待されていることから、今回の調査・研究により改めて明らかになった各校の現状や課題を共有し、相互の連携をさらに深めていくことが重要であると考えます。

ご多忙中にも関わらず、調査にご協力いただきました本部会加盟校の全ての副校長先生・教頭先生に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



## 令和2年度定通部会 事業計画（案）

### ● 北海道の事業計画

No.	期日	事業計画	会 場
1	令和2年 5月18日（月）	◆北海道高等学校教頭・副校長会定通部会理事会 総会・研究協議会	ホテルライフオート札幌
2	5月18日（月）	◆北海道高等学校定時制通信制体育連盟幹事会	ホテルライフオート札幌
3	6月1日（月）	◆北海道高等学校定時制通信制教育振興会総会・ 研究協議会	ホテルライフオート札幌
4	7月27日（月）	◆第52回北海道高等学校給食研究協議会北海道大 会	北海道札幌琴似工業高等学校
5	10月22日（木）	◆第64回北海道高等学校定時制通信制生徒生活体 験発表大会	札幌市教育文化会館
6	令和3年 3月上旬	◆令和2年度調査研究部報告書発行 ◆「会報」発行	

### ● 全国の事業計画

No.	期日	事業計画	会 場
1	令和2年 5月12日（火） ～13日（水）	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 校長並びに教頭・副校長研究協議会	福島県立郡山萌世高等学校（福島県郡山市）
2	6月12日（金）	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第1回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）
3	6月17日（水） ～19日（金）	◆第72回全国高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（全通研大会）	かでの2・7（札幌市）
4	7月30日（木） ～31日（金）	◆第72回全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 総会・教育研究協議会（全教協大会）	ピュアリティまきび（岡山県岡山市）
5	8月4日（木） ～5日（金）	◆第71回全国高等学校定時制通信制教育振興会大会 （全振大会）	ホテルグランテラス（富山県富山市）
6	3の大会を 兼ねる	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会総会 並びに研究協議会（地区通研大会）	かでの2・7（札幌市）
7	11月22日（日）	◆第68回全国高等学校定時制通信制生徒生活体験 発表大会	六本木ヒルズハリウッドプラザ（東京都）
8	12月3日（木） ～4日（金）	◆東北・北海道地区高等学校通信制教育研究会 教頭・副校長研究協議会	かでの2・7（札幌市）
9	12月4日（金）	◆全国高等学校定時制通信制教頭・副校長協会 第2回全国常任理事研究協議会（全教協理事研）	国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都）

### 《編集後記》

定通部会における広報部の業務につきましてご理解・ご協力いただきありがとうございます。おかげさまで、本年度の「会報」も無事発行の運びとなりました。編集発行にあたり、校務ご多用の中ご執筆いただきました校長協会定通部会長の養島校長先生をはじめ、全道の副校長・教頭先生、そしてWEB更新にあたりご協力いただきました、北海道有朋高等学校の諸先生方にあらためて感謝申し上げます、編集終了のあいさつとさせていただきます。

[ 北海道恵庭南高等学校教頭 国 枝 拓 ]